

# 宮崎日日新聞

発行所  
宮崎日日新聞社  
宮崎市高千穂通1丁目  
電話0985-2371  
郵便番号 880  
振替口座 鹿児島 10521  
©宮崎日日新聞社 1982

# 上げる

## 金丸分鉄 県北首長らに確約 施設部長

県北市町村長議長会(会長・早生隆彦延岡市長)は二十日、台風1号に伴う集中豪雨で不通になっている国鉄高千穂線の視察に訪れた大分鉄道管理局金丸分鉄施設部長に対し、同線早期復旧の陳情を行った。特に地元では廃止予定路線だけに、復旧に熱が入らないのでは、とする見方もあるが、金丸部長は「廃止線と災害復旧は別個のもの。一日も早い復旧に全力を挙げると答えた。

力を注ぐと答えた。さらに金丸部長は復旧までの

輸送計画を次のように説明した。日ノ影駅東方に三方立方材の土砂が流れ込んだところなどあり、全線開通には二、三ヶ月は必要。その間の輸送は、ここ一週間のうちに延岡―八戸間、日ノ影―高千穂間の折り返し連

転を始め、八戸―日ノ影間はバスで代行輸送をするなどの手を打つ。いずれにしても通勤通学に支障をきたさないように努める。なお同会は十九日にも谷口一美南延岡運輸長に早期復旧の陳情を行っている。

中国もこれまでいろいろ実験してきたが、結局同じところから足が抜けず、ソ連再評価ムードが出てきている。ブレジネフは無理にしても後継者のアンドロコフと鄧小平会談など実現するかもしれない。そのとき、日本はどう対応するか。日本の安全保障のためにも、十分目を配っておかねばならない。

## 中国の世界戦略変化

### 中嶋氏、県北政懇で講演

金丸部長らを延岡市役所に招き、高千穂線沿線一市四町の首長と議長など十七人が陳情。この中で早生市長、坂本高千穂町長らが「沿線住民は生活の足を奪われ、特に五百人を超す通学生は二学期を前に困惑している。また高千穂町では旅館のキャンセルが一万六千人にも上り

損害は一億一千万円を超える見込みで観光産業も大打撃を受け」と訴えた。また坂本町長が「高千穂線は第二次廃止路線になっている。四、五億円をかけて復旧するのにか」と、国鉄の姿勢をたしな

第六十一回県北政経懇話会(事務局・宮日カルチャセンタ)は、二十日正午から延岡市ホテル喜せつ園で開いた。講師は東京外国語大学教授、中嶋嶺雄氏で、テーマは「中国と日本」

しい格差で、例えば一人当たりGNPは四十対一、四十倍も豊かな日本人と付き合うのだから摩擦は当然起る。宿命的なもので、日本人としてもその付き合い方を知っておく必要がある。

力をつぶしたときもソ連批判はしなかったし、米国が中国に最新兵器の供与を申し出ても、それを断りソ連型武器体系を統

総務課長(鴻澄夫)アスナロ社長 木山誠(木山会計事務所社長) 長尾和夫(宮崎吉村薬品延岡支店長) 塩月真(延岡宮日サービスマスター社長) 中川忠成(宮崎日日新聞延岡支社長)



陳情団に対し、図を示しながら復旧計画などを説明する金丸施設部長(正面左側)

中嶋氏は「教科書問題を中国がやかましく言っているが、これは十年前、中国が日本に対して軍国主義化批判を展開したケースとそっくり。当時は米中接近のカムフラージュにされたわけだが、今回も背景に中国の世界戦略の転換が隠されている。それはソ連への接近で、日本もそうした裏までじっくり見ておく必要がある」と、次のように話した。

もう一つは、中国の世界戦略の変化。表面上西側と接近しているように見えるが、ソ連との和解根回しが進められている。劉少奇ラインの鄧小平らが実権を握り、毛沢東否定が強まっているが、これは単に文革否定だけではない。五十年代前半まで帰属するということは、中ソ友好時代まで考え方が戻るわけ



中国の世界戦略の変化など中嶋嶺雄氏が講演した県北地区政経懇話会

侵略を演出と書いてけしからんというのならほかにも直さねばならない部分はいっぱいある。こうしたものを取りあげて大問題としている背景には、中国なりの政治的、戦略的なものがある。その一つは日中間の著

で、親ソ派とまでいえないが、知ソ派のリーダーが最近急激に重要なポストに復帰している。社会主義が先行き厳しい中で、最後のあがきに再団結する可能性は十分ある。中ソ関係は夫婦げんかのようなもので、いろいろあっても籍は抜けない。ソ連がポーランドの連帯を軍事